

群 教 七	G02 - 03
	平14.207集

地理的事象を比較し関連付けて 考える力を育てる指導の工夫 コンセプトマップを用いた意見の交流活動を通して

特別研修員 田島 正男（邑楽町立邑楽中学校）

《研究の概要》

本研究は、中学校社会科において問題解決的な学習の過程にコンセプトマップを用いて意見の交流活動を取り入れ、地理的事象を比較し関連付けて考える力を育てるものである。具体的には、つかむ過程で事象を自分なりの視点で関連付けてとらえ、追究する過程で明確な視点で事象相互を関連付け、まとめる過程で自分たちの生活を追究してきた事象につなげてとらえることで、事象を比較し関連付けて考える力を育てる指導の工夫を行った。

【キーワード：社会 - 中 地理 問題解決学習 交流活動 コンセプトマップ】

主題設定の理由

これからの学校教育に求められていることは、「生きる力」を育成することである。社会科においては、様々な面をもっている地理的事象を、様々な角度から追究し、考察して問題の所在や取り組むべき方向性を明らかにする問題解決的な学習が必要であると考え。

生徒の実態は、作業的な学習を好む生徒が多く、調べ学習や地理新聞作りなど積極的に取り組むことができる。また、地域に関する情報の収集においては、図書館やインターネットを活用するなど意欲的な態度も見られ、自分なりの学習に生かしていこうとしている。しかし、地図や統計資料から読み取った事実のみの認識に終始していたり、地域に関する情報を他地域との結びつきや地域の人々の営みとのかかわりでとらえ、自分の考えを深めていこうとしたりする生徒は少ない。

そこで、学習を展開する中では、広い視野に立って地域的特色を考察するとともに、地理的事象に対する自分の考えの矛盾が見えてきたり、不明な点がはっきりしたりなど、自分の考えが構築できるような意見の交流活動を工夫し、地理的事象を比較し関連付けて考える力を育てる必要があると考えた。

本研究では、問題解決的な学習の過程に、地域的特色をとらえる様々な視点を明らかにするものである。それらの共通点や相違点を比較したり、関連付けたりして追究する手段として、コンセプトマップを用いた意見の交流活動に着目し、問題解決的な学習の充実を図ることを考えた。つかむ過程では、地理情報（地域的特色に結びつく事象を見いだすことができる資料）をもとにして得られた自分の考えを整理するコンセプトマップをつくり、意見の交流活動を通して、地域にかかわる事象を自分なりの視点で関連付けてとらえる。追究する過程では、自分なりに関連付けて追究した結果をコンセプトマップにまとめ、発表し合う交流活動を通して、事象相互を関連付けて、明確な視点をもってとらえる。まとめる過程では、自分たちの生活を追究してきた事象につなげるコンセプトマップづくりを行い、その考えを発表し合う交流活動を通して、地理的事象を比較し関連付けて考えることができると考え、本研究主題を設定した。

研究のねらい

地理的事象を比較し関連付けて考える力を育てるために、問題解決的な学習の過程にコンセプトマップを用いた意見の交流活動を取り入れることが有効であることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

問題解決的な学習の過程に、次のような活動を取り入れれば、地理的事象を比較し関連付けて考える力を育てることができるであろう。

- 1 つかむ過程において、事象に対する自分の考えを整理するコンセプトマップをつくり意見を交流する活動を行えば、地域にかかわる事象を自分なりの視点で関連付けてとらえることができるであろう。
- 2 追究する過程において、自分なりに関連付けて追究した結果をコンセプトマップにまとめ発表し合う交流活動を行えば、事象相互を関連付けて、明確な視点をもってとらえることができるであろう。
- 3 まとめる過程において、自分たちの生活を追究してきた事象につなげるコンセプトマップの再構成を行いその考えを発表し合う交流活動を行えば、地理的事象を比較し関連付けて考えることができるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

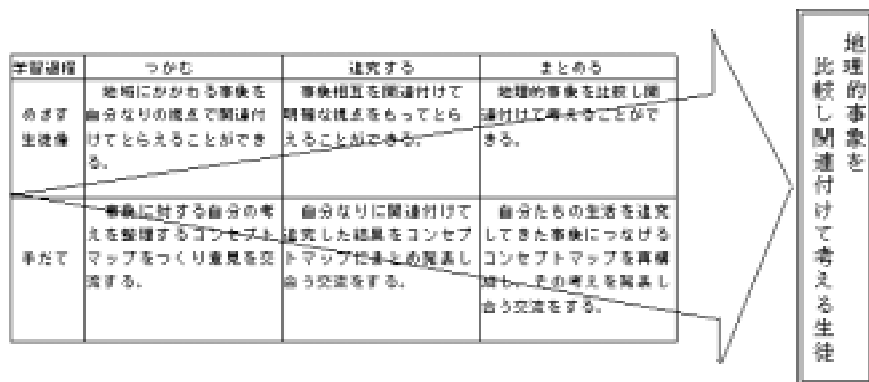
(1) 地理的事象を比較し関連付けて考える力とは

本研究で目指す地理的事象を比較し関連付けて考える力とは、事象相互の関連性に気付き、地域的特色をとらえる視点の明確化を図る力である。そこで、地域的特色を羅列的、平

板的にとらえるだけでなく、地域における諸事象を環境条件や人々の営み、他地域とのかかわりを考察し自他の意見を交流する活動を通して一層明らかにするものである。

このような力を育てるためには、地域にかかわる個々の事象を自分なりに関連付けて追究した結果から明確な視点をもってとらえることが必要である。さらに、自分たちの生活とのかかわりについて考察することで、他地域との結び付きを見いだすことができ地理的事象のもつ意味や役割についてもとらえることができると考える。

《研究の基本構想》



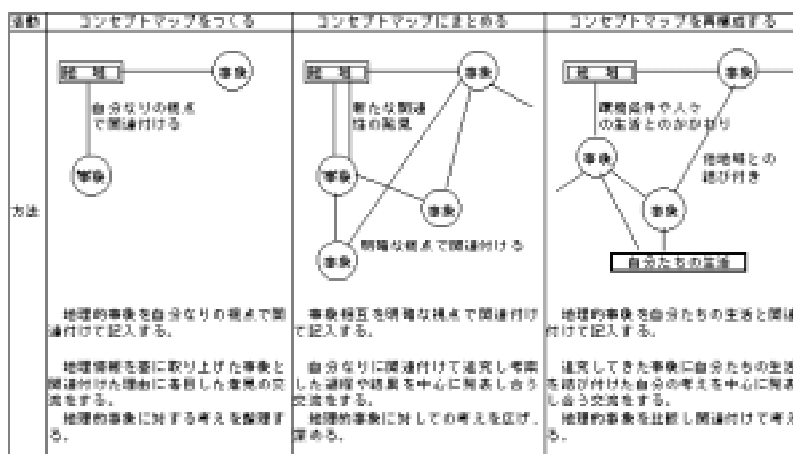
(2) コンセプトマップを用いた意見の交流活動について

コンセプトマップとは、

事象と事象を適切に関連付けて自分なりの見方や考え方を構築していくものである。このようなコンセプトマップを利用して自他の考えを交流することで、地域的特色をとらえる明確な視点が見えてきたり、調べ方がはっきりしたり新たな関連性の発見や他の事象との結び付きを見いだすことができる。さらに、

自分たちの生活と追究してきた事象を関連付けその考えを交流することで、他地域とのかかわりに気づき自分の考えを広げ、より深めることができると考える。

地理的事象の関連性に着目した意見の交流活動



2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い検証する。

(1) 授業実践計画と検証計画

対象	邑楽町立邑楽中学校 2年1組(39名)	単元	世界の国々を調べよう 「アメリカ合衆国」
実施期間	平成14年10月15日～11月25日 (全9時間)		
検証項目	検証の視点		検証の方法
見通し1	つかむ過程において、教科書や地図帳などから読み取った事象を基にコンセプトマップをつくり、地域との関連で自分の考えを整理する意見の交流活動を取り入れたことは、地域にかかわる事象を自分なりに関連付けてとらえるために有効であったか。		コンセプトマップ (自分なりの関連付け) 学習の観察 ・記録の分析
見通し2	追究する過程において、インターネット情報や統計資料、分布図、写真などを基に自分なりに関連付けて追究した結果を、コンセプトマップにまとめ発表し合い意見の交流活動を取り入れたことは、環境条件や人々の営みなどと関連付けて、明確な視点をもってとらえるために有効であったか。		コンセプトマップ (新たな関連付けや他の事象との関連) 有用資料・発表用資料 ・発表内容・学習の観察 ・記録の分析
見通し3	まとめる過程において、自分たちの生活と追究してきた事象を関連付けてコンセプトマップを再構成し、他の地域との結び付きを考える意見の交流活動を取り入れたことは、地理的事象を比較し関連付けて考える力をつけるために有効であったか。		コンセプトマップ (追究してきた事象と自分たちの生活との関連付け) 学習の観察・記録の分析

(2) 抽出生徒について

男	作業的な学習には意欲的に取り組み、地図や統計資料などの読み取りはできる。また、調べたことや自分の考えをまとめたり表現したりすることに対して苦手意識はあるが、一つ一つの学習活動に対しては前向きに取り組むことができる。有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究した結果をまとめたり説明したりできるようにしたい。
B子	課題に対しては真面目に取り組む、調べたことや自分の考えを自分なりに工夫して丁寧にまとめることができる。事象に対しては自分なりの見方であるが、友達との意見交流は意欲的で、自分の考えを深めようとする学習態度が見られる。地域にかかわる様々な事象を環境条件や人々の生活などと結び付けて考察し表現できるようにしたい。

研究の展開

1 単元の考察と目標、評価規準

単元の考察	本単元は、学習指導要領の内容(2)のウにあたり、広大で多様な国土をもつアメリカ合衆国について様々な資料を活用して調べ、高度に資本主義を発達させた人々の生活や産業の特色、抱えている社会問題等を地域の環境条件と関連付けて考えることにより、日本と密接な関係があるアメリカ合衆国の特色をとらえることをねらいとしている。また、アメリカ合衆国は、豊富な農鉱山資源を背景に自由競争を基盤として各種の産業を高度に発達させ、政治的、経済的、農工業、文化等あらゆる面において世界の中心的役割を果たし、色々な面で世界各国に影響を与えている国である。生徒にとってもアメリカ合衆国は身近な存在でありながら、その地域の特色について考える機会は少ない。そこで、このような国としての特色をもつアメリカ合衆国と日本を関連付けて考えることにより、広い視野にたった見方をはぐくむことができると考え、本単元を設定した。	
	アメリカ合衆国の地域的特色をとらえるとともに、国家規模の地域的特色は、諸地域を比較し関連付けて、一般的共通性や地方的特殊性の視点や環境条件、他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりを基にしてとらえられることを理解する。	
評価	おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
	社会的事象への関心・意欲・態度	
評価	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国の地域的特色について関心を持ち、地図帳や統計資料を活用しながら追究している。 	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国の地域的特色やその特色を成り立たせている諸条件について関心を持ち、自ら資料を収集したり、インターネットや取材活動を行うなど意欲的に追究している。
	社会的な思考・判断	
評価	<ul style="list-style-type: none"> 世界的視野から見たアメリカ合衆国の地域的特色について自分なりの課題を見いだしている。 アメリカ合衆国の地域的特色を他の地域と比較しながら考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的視野から見たアメリカ合衆国の地域的特色について課題を見だし、自分で計画を立てて調べている。 アメリカ合衆国の地域的特色を地域の環境条件、他地域との結び付き、人々の営みなどに着目したり、他の地域と比較したり関連付けたりしながら考えている。
	資料活用の技能・表現	
評価	<ul style="list-style-type: none"> 課題追究に必要な統計資料や分布図、写真などを収集して調べている。 調査した結果を地図やグラフ、イラストマップなどに自分なりにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題追究に必要な統計資料や分布図、写真などを図書館、インターネットや取材活動など多様な方法で収集し、有用な情報を選択して活用している。 調査した過程や結果を地図やグラフ、図表、イラストなどを活用してまとめ、他者にわかりやすく発表している。
	社会的事象についての知識・理解	
評価	<ul style="list-style-type: none"> 世界的な視野や地理情報に基づいたアメリカ合衆国の地域的特色を理解している。 国家規模の地域的特色について地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的な視野や地理情報に基づいたアメリカ合衆国の地域的特色には、一般的共通性と地域的特殊性があることを理解している。 国家規模の地域的特色について地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して理解する。

2 指導と評価の計画(全9時間予定)

過程	時間	主な学習活動・内容	形態	評価項目(評価方法)
つかむ	1	<p>なぜ、アメリカ合衆国と日本は関係が深いのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国について知っていることをカードに記入し、発表する。 収集した地理情報を地域との関連でいくつかの項目を設定し、分類・整理する。 整理されたカードを基にアメリカ合衆国と日本とのかかわりについて話し合う。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国について知っていることを進んで発表しようとしている。(発表) 日本には見られない「多様性」があることに気付くことができる。

つかむ	2	【見通し1】 ・コンセプトマップをつくり、アメリカ合衆国に対する自分の考えを整理する。 ・地域を調べる基本的な視点を確認し、関連性について意見交流をする。	個人	・自分なりの視点で関連付けができ、アメリカ合衆国に対する自分の考えを整理することができる。 (コンセプトマップ・交流)
追 究 す る	3	・アメリカ合衆国について集めたさまざまな情報から見いだした共通性や特殊性を発表する。 ・自他の発表内容を基に、アメリカ合衆国の特色をとらえるための課題を設定する。 ・学級全体で適切な課題を複数設定し、課題ごとにグループを編成する。	一斉	・疑問に思ったことや気付いたことを基に課題を設定することができる。 (ワークシート)
	4	・課題を追究するための視点を考え、課題にかかわる背景や要因を予想し、追究するための方法を考える。 ・課題を追究するための情報を収集する。	グループ	・地域の環境条件や人間の営みとのかかわりに着目して課題にかかわる背景や要因を予想することができる。 (ワークシート) ・課題の追究に必要な地図、統計資料などを選択し活用することができる。 (ワークシート)
	5	【見通し2】 ・自分なりに関連付けて追究した結果をコンセプトマップにまとめ、意見の交流をする。	個人 グループ	・まとめたコンセプトマップを基に新たな関連性や調べ方について考えることができる。(コンセプトマップ・交流)
	6	・アメリカ合衆国に関する課題を追究し考察した過程や結果をまとめる。		・課題を解決するために、地図やグラフなどを描いて役立つ情報を選択し、発表用資料にまとめることができる。 (発表用資料の内容)
ま と め る	7	・アメリカ合衆国の特色に関する課題を追究し考察した過程や結果を発表したり、発表を聞いて質問をしたりする。 ・発表を聞いて、アメリカ合衆国の特色とそれを追究するためのより明確な視点や方法を考える。	一斉	・アメリカ合衆国の特色に関する課題を追究し考察した過程や結果を地図やグラフを活用して分かりやすく発表することができる。 ・友達の意見を聞いたり、発表用資料を見たりして自分の考えをさらに広げ、深めることができる。 (発表)
	8	【見通し3】 ・追究してきたアメリカ合衆国の特色を自分たちの生活と結び付けて考え、コンセプトマップにまとめる。 ・コンセプトマップにまとめたことを基に、アメリカ合衆国と日本との関係について意見の交流をする。	個人 グループ	・地域における特色は、人々の生活と深いかかわりがあることに気付くとともに他の地域との結びつきがあることが分かる。 (コンセプトマップ・交流)
	9	・今回の学習を振り返り、今後のアメリカ合衆国と日本とのかかわりについて考えるとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を整理する。	一斉	・アメリカ合衆国と日本とのかかわりについて自分なりの考えを構築することができる。 (ワークシート)

* 指導計画及び具体的評価規準については資料編(資料1)参照

研究の結果と考察

1 アメリカ合衆国に対する自分の考えを整理するコンセプトマップをつくり意見の交流をする活動を取り入れたことは、地域にかかわる特色を自分なりの視点で関連付けてとらえるために有効であったか

アメリカ合衆国について知っていることをカードに記入し、自分なりの考えでいくつかの項目を設定し、分類・整理をした。クラス全体でカードの平均は、25.4枚と「中国」の学習に比べると比較的多く、内容は「人々」「民族」「生活」「自然」「産業」など広範囲にわたり、アメリカ合衆国についての興味や関心が高いことが分かる。それらの情報を基にしてコンセプトマップに一つ一つの事象を関連付けて記述した。A男は、星条旗の星の数からアメリカ合衆国と「国土」を結び、50の州と関連付け、地図帳の州別区分図で確認してマップに記述した。

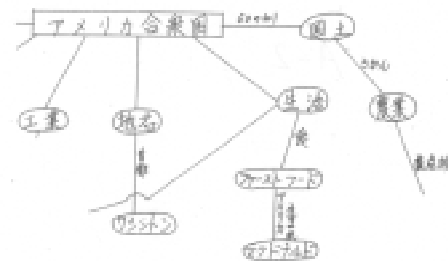
ここまでのマップに 11 件の事象が記入されていた。その後、教科書や地図帳を手がかりにした意見交流の中でアメリカ合衆国の工業が発展した理由として「労働力が豊富」「資源に恵まれていた」ことなどの意見に影響を受け「工業」を書き加えた。関連付ける理由が記入されていないのは、工業の種類を関連性として考えていたようである。さらに、統計資料を調べた生徒から「軍事費がこんなに使われているよ」という発言で盛んな工業として「軍事産業」があることを知り、「工業」と「兵器」を結び付けるが、関連付ける理由が見つからず交流の場で「どうして、お金をかけるのだろうか」と質問していた。しかし、情報がなく理由を探ることができなかった。すると、軍事産業を調べることで「強いアメリカが見えるだろう」と考え、「なぜ、兵器をつくらなければならないのか」と課題を設定した。交流の後には 20 件の事象が記入され、多くの関連性に気付くことができた。中でも「マクドナルド」については、日本の企業と考えていたようであるが完成したマップの中には「アメリカ生まれ」と関連性を記載している。これらのことはアメリカ合衆国にかかわる事象を自分なりの視点で関連付けてとらえたものである。

B 子は、アメリカ合衆国にかかわる事象を「建物」「人物」「地理」「有名」「住民・生活の特長」から実に広範囲に記述している。教科書に記載のハンバーガーを食べる家族という写真資料から、日本でも同じ光景を目にしていることに気づき、マクドナルドの秘密を探ろうとしていた。マップには、16 件の事象が記入されていた。また、交流の場においてはアメリカ合衆国の食文化について意見交換をすると、「肉やパンが中心」「コーヒーを飲む」「ファーストフード」などの意見からアメリカ合衆国の食生活が見えてきたようである。すると、「みそ汁ってアメリカの大豆を使っているのかな」という友達の発言によって「日本」と結び付け、その理由として「貿易」と記述する姿が見られ自分なりの視点で関連付けができた。

以上のことから、自分の考えを整理するコンセプトマップをつくり意見の交流活動を取り入れたことは、アメリカ合衆国にかかわる多くの事象に気付き、線で結ぶことによって事象どうしの関連性について明らかにすることができた。また、コンセプトマップをつくる中で地理的事象に対する自分の考えを整理し、自己の課題を明確にすることができたと考えられる。

- 自分なりに関連付けて追究した結果をコンセプトマップにまとめ、発表し合う交流活動を取り入れたことは、それぞれの特色を関連付けて、明確な視点をもってとらえるために有効であったか
- アメリカ合衆国に関する課題を追究し考察した過程や結果をコンセプトマップにまとめた。

資料1 事象を自分なりの視点で関連付けたコンセプトマップの一部(A男)



資料2 事象を自分なりの視点で関連付けたコンセプトマップの一部(B子)

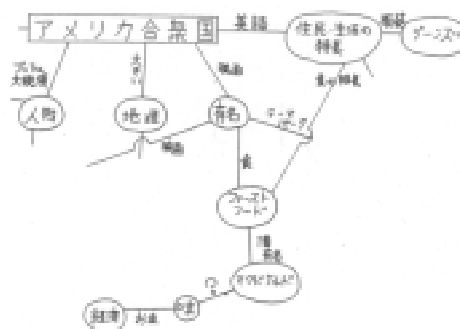


表1 自分なりの視点で関連づけたもの

自分なりの視点	人数	自分なりの視点	人数
人々	23人	国土	8人
生活	20人	有名	12人
民族	9人	地名	12人
自然	5人	歴史	17人
農業	18人	政治	6人
工業	21人	文化	7人
建物	15人	出来事	11人

多くの生徒が図書室やインターネットを利用し収集した資料を基にして、事象相互の関連性に注意しながらマップの中に書き加えることができた。しかし、インターネット情報の量の多さからか関連付けに迷う生徒もいた。

A男は、課題について調べた結果を「国を守るため」と発表し、その理由としてアメリカ合衆国は世界の中心的役割をしていることや国際連合のリーダー的存在であることなどを付け加えていた。交流メモの中で農業や工業に関するの発表から「資源」「機械化」。人々の生活についての発表から「映画」「ロボット」など多くの言葉を残している。その一つ一つをよく考え、丁寧に結び付けていた。事象の関連付けについても様々な視点から理由の記述が見られ、いままで線で結ぶことができなかった事象を明確な視点でつなげることができた。このことは課題を追究した結果のみを発表するのではなく、考察した過程にも着目して情報交換ができたことが大きいと考えられる。

B子は、「マクドナルド」について追究したことでアメリカ合衆国の食文化を知るだけでなく、アメリカ合衆国の自動車産業との関連性に気づき「デトロイト」「ヘンリー・フォード」「世界」と、その強いつながりをしっかりとらえている。自動車の普及によって車内でも手軽に食べるのでできるファーストフードが人々の生活の中に広がっていったと発表している。また、世界への影響も大きいと知り、世界のマクドナルドの店舗数を調べ、表にして発表用資料の中に記した。

以上のことから、コンセプトマップに追究した結果をまとめ、交流することによって、多くの生徒が新たな関連性の発見や他の事象との関連を調査結果に裏付けされた明確な視点をもってマップの中で表現することができた。また、B子の発表内容をクラスに紹介したことにより、一つ一つの事象に対する見方や考え方を深めることができたと考えられる。

3 自分たちの生活を追究してきた事象につなげるコンセプトマップづくりを行いその考えを発表し合う交流活動を取り入れたことは、地理的事象を比較し関連付けて考えるために有効であったか

追究してきたアメリカ合衆国の特色を自分たちの生活と結び付けて考えるために、「日本」についてのコンセプトマップを資料を使わずに「生活や学習経験」を基にして作成した。マップの作成途中で、「日本の犯罪もアメリカと同じようになってきたよね。」「日本でも大きなテロ事件が起きたらどうなるだろう。」「環境の問題にアメリカはどのように取り組んでいるのか。」などアメリカ合衆国を意識した発言を耳にすることができた。

A男は、課題の柱となった「工業」に「公害」「温暖化」などを関連付け、現在の日本のかかえる問題をとらえていた。アメリカ合衆国の「工業」も日本の「工業」も発展することはすばらしいことだが、利益を優先させると人間に被害が及ぶと発表している。このことは、マップの中で「いたいいたい病」と記載されている。「どのようにしたらよいのか。」という教師の問

資料3 明確な視点でとらえるための交流メモ(A男)

アメリカ、資源が多い
農業 → 機械化、全体的に少人数化
(大型)
ハリウッド映画—生活—スポーツ
工業—ロボット (野球)
「
ロケット、宇宙
アトム、大統領

表2 明確な視点で関連付けたもの
「生活」に関する視点(20人中)

明確な視点	人数	明確な視点	人数
習慣	3人	自由の女神	10人
映画	11人	学校	2人
スポーツ	8人	音楽	6人
ファーストフード	18人	食文化	9人
英語	9人	旅行	2人
ジーンズ	15人	自動車	8人
ハローウィン	5人	コンピュータ	11人
住宅	7人	その他	8人

資料4 日本の軍事力と関連付けて書いた感想(A男)

日本は右に左は原爆も落とされた経験から戦争も放棄している。その目的がアメリカのように多くの国を費用はかけられていない。
しかし、自衛隊を維持するために防衛の費用が必要になる。また、その目的や仕事の内容によって異なるのでよくよく今後大切になっていくだろう。

いに対しては、「人間がもっと環境を大切にする。」と答えている。また、「兵器」との結び付きについては、日本の自衛隊と関連付けて述べられている。(資料4)。日本の全体像を人間とのつながりでもとらえていると考えられる。

B子は、やはり日本の食文化に着目し、マップの作成をはじめた。アメリカ合衆国と同様に多くの事象を結び付け関連する理由を記入した。生活習慣の違いについての発表を聞いて「日本」と「和食」とのつながりを「昔からの伝統文化」ととらえ、交流の場でアメリカ合衆国における肉中心の食文化に対して、野菜を中心とした「和食」のよさを発表していた(資料5)。また、アメリカ合衆国のコンセプトマップと日本のコンセプトマップとを比較し、日本はアメリカ合衆国の影響を大きく受けている国と考えたようである。「工業」とのつながりはもちろん「日本の生活」の中にはアメリカ合衆国から伝えられた多くの文化があることに気付くことができた。

以上のことから、自分たちの生活をアメリカ合衆国の事象とつなげるコンセプトマップをつくり発表し合う交流活動を取り入れたことは、日本の地域的特色とアメリカ合衆国の特色を比較し関連付けて、自分の見方や考え方で地理的事象をとらえることができると考える。

資料5 文化の違いについて書いた感想(B子)

しかし、日本には和食という日本独特な料理があること、その和食のいい所などを忘れてはいけないと私は思う。
ファーストフードだけではなく、アメリカなどから多くの文化が日本に入ってきているが、これなどは他の国の文化を受け入れたとしても、自分たちの国の文化も大切にしていけることが必要である。

表3 自分たちの生活と関連付けたもの
「生活」に関する視点(20人中)

明確な視点	人数	明確な視点	人数
習慣	2人	自由の女神	1人
映画	9人	学校	1人
スポーツ	8人	音楽	4人
ファーストフード	8人	食文化	10人
英語	7人	旅行	1人
ジーンズ	10人	自動車	12人
ハローウィン	0人	コンピュータ	6人
住宅	5人	その他	3人

研究のまとめと今後の課題

- 個々の存在としてとらえていた地理的事象を関連付けて考えることにより、地域にかかわる事象のもつ意味や役割を明らかにすることができた。その結果、地域における特色を明確な視点でもとらえ、自分たちの生活とのかかわりを考察したことで他地域との深い結び付きを理解することができた。
- 自らの思考を整理するためにコンセプトマップに表し、事象相互の関連性に着目した交流活動を通して、地域的特色をとらえるためのさまざまな視点や調べ方に気付くことができた。また、自他の考えを比較することで一つ一つの地理的事象に対する自分の考えを広げ、深めていくことができた。
- アメリカ合衆国の特色を自分たちの生活と結び付けて考える場面において、相互依存や協力、競合などの様々な関係をとらえるために、「他地域との結び付き」に主眼を置く調べ学習、地理的なまとめ方や発表の方法などの表現活動をさらに工夫することが必要である。

<参考文献>

- ・澁澤 文隆 著 『中学校社会科新地理学習の方向と展開』 明治図書(2002)
- ・澁澤 文隆 編 『中学校社会科のリニューアルと授業デザイン』 明治図書(2002)
- ・福岡 敏行 編著 『コンセプトマップ活用ガイド』 東洋館出版社(2002)